

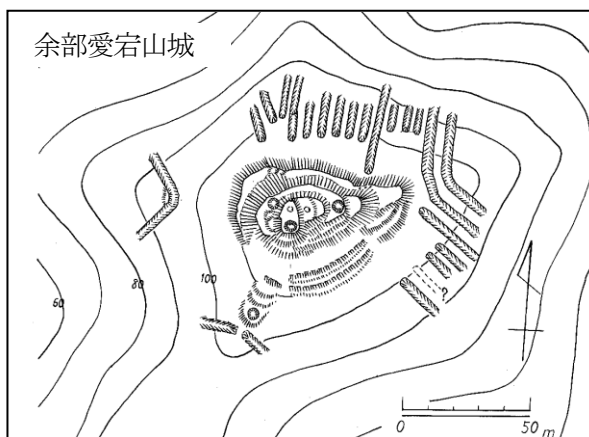
No.47 余部愛宕山城

舞鶴市字余部上小字中貝他

- ・遺構---曲輪、堅堀、畝状空堀群、堀切
- ・標高---120m
- ・比高---115m
- ・占地---山頂
- ・遺跡地図番号---

この城は、海上自衛隊舞鶴地方総監部の裏山の山頂に位置する。また、旧市営プール周辺は当城の北東尾根の海岸近くにあり、出城である可能性もあるが旧日本軍による破壊のため確認できない。曲輪は北の舞鶴湾側に片寄って配置されており、畝状空堀群も海岸側を中心にして敷設されていることから、この城館は舞鶴湾からの敵に対して構築されたと考えられる。頂上部には旧日本軍の銃座の跡が三ヶ所残り、山城の遺構が破壊されている。

城主に関する記録や伝承はない。



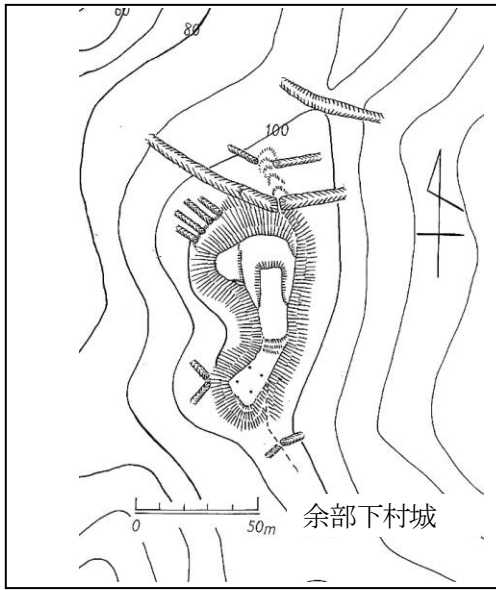
No.48 余部下村城

- ・舞鶴市字余部上小字後山
- ・遺構---曲輪、堀切、畝状空堀群、堅堀
- ・標高---110m
- ・比高---90m
- ・占地---山頂
- ・遺跡地図番号---380

この城は道芝トンネル北方に位置する。西方150mには余部上城がある。曲輪は南北80m東西35mを最大幅とし、中央に主郭がある。余部上城につながる西側斜面には畝状空堀群が敷設されており、堅固に防禦している。北側の尾根続きも堀切と堅堀で防禦しており、舞鶴湾方向を意識した構えを持っている。削平状態は良好であり、余部と北吸の境にある重要な城館であったと考えられる。

城主としては、近世地誌類は余部下村の古城として瀬野和泉守をあげている。





あまるべかみじょう
No.49 余部上城 (別名 須古谷城)

舞鶴市字余部上小字中貝他

- ・遺構---曲輪、堀切、豎堀、土塁
- ・標高---100m ・比高---90m
- ・占地---山頂 ・遺跡地図番号---379

この城は余部下村城の西方に位置する。城域は堀切で南部分と北部分に分かれており、主郭はこのうち北部分にある。主郭の規模は、南北55m東西25mで、西側が低い二段構成となっている。中央部には10m×5m程の台場があり、櫓台である可能性もある。主郭から東の余部下村城に向かう尾根には小規模の堀切を敷設している。北方向は高さ10m程の切岸となり二重の堀切が敷設されている。そこから長さ100mの自然地形を利用した曲輪があり、小規模の堀切がその先端に見られる。

南部分は二段の曲輪となっており、それより南方の尾根続きは二重の堀切で遮断し、幅の広い土塁を曲輪側に敷設している。櫓台としても使用できるものである。そこから延びる西尾根にも二段の曲輪があって、下部に堀切がある。

城主については「嶽家文書」に従って瀬野和泉守の本城であると考えたい。

